


トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム 留学状況報告書

(様式1)



氏名(ふりがな)	荒瀬 甫 (あらせ なみ)			
所属大学等	宮崎大学			
課程(学部/修士/博士等)	学部			
学年(留学修了時)	4			
学部/研究科/学科	教育文化			
学科/選考/コース	人間社会課程言語文化コース			
期	第1期			
コース	多様性人材コース			
留学期間(留学全体)	2014年9月2日～ 2015年8月7日			
留学先 ※留学先の数に応じて行を追加してください。 ただし、4か所を上限とし、4か所を超える場合は、重点的な留学先を3か所抽出し、他は4か所目に纏めて記載	国/ 都市名	受入機関(英語名称/ 日本語名称)	期間	実践 活動
	1	台湾 台北	台湾国立師範大学 国語中心	2015/2/24-8/7
2	台湾 台北	故宮博物院 南院	2015/2/7-8/1	ボラン ティア

My留学タイトル	地方の魅力をアジアへ発信
留学計画 (留学前設定内容) ※プログラム応募時の申請書より抜粋	大学を2014年後期から2015年前期まで休学し、私費留学として台湾へ留学する。台湾では、ボランティア活動と中国語学習に1年間取り組む。ボランティア活動は、台湾の博物館施設における文化財資源の活用方法について実践的に技術を学ぶ為に、国立伝統芸術センターで業務補助活動を行う。中国語学習は、現地でボランティア活動する際に必要十分な、総合的な中国語能力及び専門分野における中国語能力を、中国文化大学中国語センターの学習プログラムを受講し習得を目指す。
評価の方法 (留学前設定内容) ※1期生についてはプログラム応募時の申請書 [2.留学中の学修・実習の目的、達成目標 (5) 学習・実習参加による単位取得の内容(単位による就学成果測定が行われない場合、これに代わる修学成果の測定方法)]より抜粋	1. 中国語資格試験の取得 ・中国語能力試験推進委員会 中国語能力検定 流利級 ・中国語能力検定試験 準1級 ・HSK(漢語水平考査) 5級 2. センター発行の証明書類

留学結果概要	受入機関	留学結果概要
※留学先の数に応じて行を追加。ただし、4か所を上限とし、4か所を超える場合は、重点的な留学先を3か所抽出し、他は4か所目に纏めて記載	国立台湾師範大学	中国語能力を効率良く精錬する為、平日は語学学校に通った。基本的な教科書学習に加え、選択制の文化クラスも豊富だったので、読・聞・書・話のそれぞれの能力をバランスよく向上させることができた。また、授業内容はテーマ自由型のプレゼンテーションやレポート課題が多かったので、自己の研究に関連したテーマ内容で発表することができ、自分の必要な単語等を同時に学習することができた。また、図書館もあり、資料収集に非常に役立った。
	故宮博物院	故宮博物院南院第八期ボランティアに参加し、ボランティア員の育成プログラムを受講した。7月に行われたテスト審査にも合格し、無事ボランティア要員の資格を得ることができた。また、故宮博物院のコレクションや展覧会等の講義以外にも、地域史についても学習する機会があり、国際価値のある伝統芸術文化及び地方伝統芸術文化についても知識見聞を深めることができた。

留学中の成果	留学中の成果
※前述の「評価の方法」に照らした内容も記述すること	台湾の伝統工芸品及び博物施設における工芸品発展・普及の機能を調査・研究する為、伝統芸術文化センターと故宮博物院ボランティアに参加し、ガイド翻訳、観光客への解説等に携わった。また、故宮博物院のボランティア活動では、ボランティア養成講座試験に合格しボランティア証を取得することができた。加えて台湾国内の博物施設を廻り、台湾伝統工芸品の調査・研究も行い、伝統工芸品の現況を知ることができた。また、語学については、前半は中国文化大学語学センターにおいて、後半は台湾国立師範大学語学センターに通い、語学能力の向上に努め、HSK5級・中国語能力試験推進委員会中国語能力検定進階級を取得した。また、宮崎伝統工芸品ミニ写真展を開催し、同時に自作の中国語パンフレットを作る等、地域の伝統工芸品発信・普及に努めた。

留学中の気づき、得られたもの、苦労したこと	留学中の気づき、得られたもの、苦労したこと
	留学中に限らず、本々他人に対して強く不信感を抱く人間ではあったが、留学中はとりわけこの状態が非常に深刻な問題となった。友人や知人に対してはそこまでなかったが、見ず知らずの人が多く集まる場に恐怖感を抱くこともあった。自分で外界との接触を遮断していく内にどんどん孤立し、留学活動に支障をきたすこともあった。なので不安や不満は、他者の力を頼ってでも、なるべく速やかに解消すべきだと思った。それに他人に不安や不満を話すことは、自分が救われるだけではなく、意外と他者との関係を繋ぐこともできるのではないかとも思った。

日本発信プロジェクトの活動内容と成果	<p>日本発信プロジェクトは、普段は基本的に食文化の発信を通して行った。また、友人が現地で音楽活動を行っていたので、それに便乗して日本の大衆文化の発信も行った。基本的に名刺配布もそのような機会を利用して行ったので、効率的に第三者にも配布でき、何とか目標枚数100枚に達することが出来た。また、7月には小規模なミニ写真展を開催し、出身地である地元宮崎県の伝統工芸品の紹介を行った。パンフレットや写真から小規模ではあるが全て自分で始めて行ったので、あまり納得できるものではなかったが、多くの人に自分でセレクトした宮崎の工芸品を紹介できた上、お世辞でも褒めてもらえて良かった。</p>
---------------------------	---

帰国後の活動、エバンジェリスト活動に向けて	<p>台湾故宮博物院でのボランティア活動を通して、海外発信目的・拡大の為のグローバル・オープンな博物施設を、実際に運営することに興味・関心を抱き、また台湾以外のアジア圏に置いて、実習やボランティア等の参加型フィールド・スタディを実践していきたいと思ったので、今後は大学院進学を目指し研究を続行していきたいと考えている。また、エバンジェリスト活動については、参加型フィールド・スタディを希望している、人文系の学生の留学を促したいと思っている。その為、自己の大学の、大学主催及び学部主催の留学説明会には積極的に参加し、この留学プログラムを広めていきたいと思う。</p>
------------------------------	--

日本代表プログラムの後輩へのメッセージ	<p>留学計画をたてた時点では、正直個人も大丈夫だろうと思っていました。しかし、実際個人で行うには困難なことも多々ありました。それに、文化圏が異なればどうやったら効率的に作業を進められるのか、その国の社会構造を良く考察しなければなりません。また、留学活動意外に食生活や健康、加えて事件や事故等留学生活にも気をつけなくてはなりません。なので、日々試行錯誤と自己管理の戦いになります。けれども、一人でも留学中に、その文化、社会、学習や留学について討論できる、所謂留学中の同士がいれば、疑問や不満をアウトプットし自己にフィードバックできるので、ふと突然困難な状況に陥った時でも、何かしら解決策を生み出すことが出来ます。それに、個人の思考は限られているので、他者との対話は新たなアイデア誕生へも繋がります。個人で出来る人は良いのですが、もし不安な方は同士を見つけて乗り切るのも良い策だと思います。</p>
----------------------------	--

日本代表プログラムに参加したの感想	<p>日本人として、そしてその中でも日本の代表として第一期生に選ばれたことに、とても嬉しく思いましたし、同時にとても緊張しました。けれども沢山の方の応援や協力もあって、大きなプレッシャーを感じつつも、一通り終わられたことに非常に感謝しています。この日本代表プログラムを通して、個人としての思考や活動が、日本人や地域、学生等のグループとしての行動や思考、感情に何かしら作用でし、さらには海外という地域を越えた他のグループへも多少なりとも影響を及ぼせるのだという、少しの自信と大きな責任を感じました。また、普段無計画なので、事前に計画を立て、計画に沿って行動をするということが如何に難しいことが痛感しました。それでも何とか反省と消化を繰り返し、少なからず自己の達成したい姿に近づけることが出来た上、次のステップへ繋がられるので私にとっては非常に良い機会でした。</p>
--------------------------	--

自由記述欄 ※報告書全体が4ページで収まるようにしてください。写真には説明書きをつけてください。



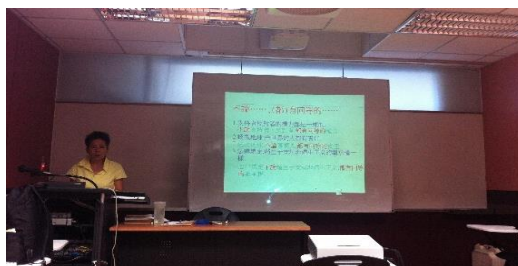
1. 師範大学文芸看廳でのミニ宮崎工芸品展



2. 文化大学での文化クラス



3. 伝統芸術文化センターでのボランティア活動(写真撮影)



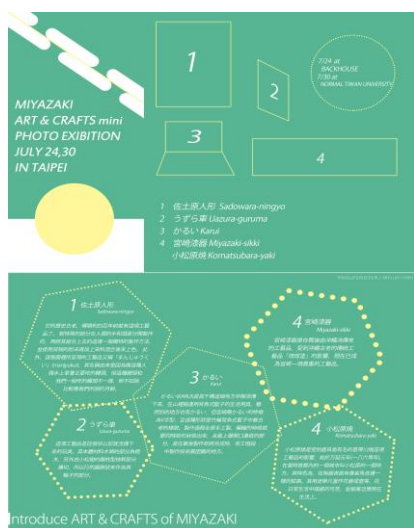
4. 語学センターでの授業



5. 台湾国立工芸発展研究所での竹工芸品の展示



6. 故宮博物院ボランティア終了証授与



7. 故宮博物院ボランティア養成講義終了式

8. 宮崎ミニ伝統工芸品製作パンフレット